

大阪市立平野中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は社会に貢献できる生徒の育成を目指し、「あいさつをする、他人の話を聞く、ルールやマナーを守る」等の指導に継続して取り組んでいる。また、教職員が協力・連携し、毎日の登下校指導や生活指導、授業規律を徹底することで、落ち着いた学びの場を維持している。経済状況の悪化や家庭状況により生活が厳しい生徒もいる中、生徒は学習や部活動に前向きに取り組んでいる。しかし、自分の将来や学習に対する目標意識が低い生徒が多く、「全国学力・学習状況調査」、「大阪府チャレンジテスト」等の結果を分析すると、学力の2極化が顕著である。数年前から家庭学習の定着を図る取組を継続して行っているものの、各調査の質問紙等の回答状況から、家庭で主体的に学習する生徒の割合は増えておらず、これまでの取組の成果が表れていない。

- 学級活動・生徒委員会活動・部活動等の活性化と充実を図り、部活動や生徒委員会に積極的に参加する生徒の育成を通して自己肯定感を高める。
- ICT機器を授業や家庭で活用し、生徒の個に応じた学びを保障するとともに、家庭学習の定着を図る取組が必要である。
- 各教科において生徒の協働学習を推進し、言語活動によって「知識・技能」を活用し「読解力」、「思考力」、「表現力」を育成するための授業改善が必要である。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った実践交流や研修等を実施する。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で把握した虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、毎年100%にする。
- 令和7年度末の学校教育生徒アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の学校教育生徒アンケートの「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の学校教育生徒アンケートの「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和4年度からの4年間で3ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力体力の向上】

- 令和7年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)3割以下の生徒を、いずれの学年も令和3年度より2%減少させる。
- 令和7年度の学校教育生徒アンケートの「授業や学級活動で話し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度末の学校力UPベースアンケートの「習熟度別少人数授業別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を令和4年度からの4年間で2ポイント増加させる。
- 規則正しい生活を身につけている生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、学校教育生徒アンケートの「給食を残さずに食べていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の学校教育生徒アンケートの「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、95%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定し、学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の学校教育生徒アンケートの「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度の学校教育保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目について、肯定的に回答した保護者の割合を、令和3年度(87.7%)より2ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の学校教育生徒アンケートの、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて必要な対応をした割合を、95%以上にする。
- 年度末の学校教育生徒アンケート「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上にする。
- 年度末の学校教育生徒アンケートの「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- 年度末の学校教育生徒アンケートの「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

【未来を切り拓く学力体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を40%以上にする。

学校園の年度目標

- 年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)3割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1%減少させる。
- 年度末の校内調査(学校力UPベース)の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60%以上にする。
- 4年度の学校教育生徒アンケートの「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、「給食を残さず食べていますか」それぞれに対して、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 家庭や授業で一人一台の学習者端末を効果的に活用し、年度末の校内調査における「家庭や授業で学習者端末を週に3回以上活用しますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 協働学習支援ツールを用いた学習を推進し、年度末の校内調査における「学習者端末を活用して、友達と協力して授業の学習内容を理解することができている。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を43%以上にする。

学校園の年度目標

- 学習者用端末を活用した家庭学習の取組を月2回実施し、年度末の学校教育生徒アンケートにおける「デジタルドリルを活用した家庭学習で、学校の学習内容を復習することができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を55%以上にする。
- ゆとりの日の設定を、月2回以上または各学期に6回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間においては1日以上設定する。
- 令和4年度の学校教育生徒アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目で、肯定的に回答した保護者の割合が前年度(87.7%)を上回る。

3 本年度の自己評価結果の総括

教職員の協力、連携のもとに生活指導、授業規律を徹底することで、落ち着いた学びの場を維持できている。配慮をする生徒や関係諸機関と連携し見守りが必要な生徒も複数名いる中で、不登校生の比率や改善の割合に成果が表れているのは、教員一人ひとりのきめ細やかな生徒や保護者対応の結果である。また、今年度も生徒の健康観察を徹底して行い、学級休業や学校休業の措置を可能な限り回避し、通常の教育活動を維持することができた。

いじめの疑いのある事案や虐待通告、SNS 等のトラブルも複数件あったが、指導の方向性を共通理解したうえで各事案に適切に対応することができた。各事案の未然防止や早期発見に向け、個々の生徒や家庭の状況を適切に把握し、生徒の状況や事案に基づいた人権教育を推進していく。

全教員が授業改善に努めているものの、各調査結果より生徒の学力の向上については著しい変化はない。学校での教員及び生徒の ICT 機器の活用頻度は増えているが、学力の向上につながる効果的な活用についてはより一層工夫改善を要する。また、習熟度や TT 等の学びの形態においても、計画的かつ効果的な指導について各教科で検討し見直す必要がある。言語活動の充実においては、年間指導計画の単元における言語活動の進捗状況を学期ごとに把握し、教員全体の授業力の向上に繋がるよう効果的な指導法や指導内容について共通理解できる場を設けていきたい。

生徒の安心安全及び学力向上における ICT 機器の活用においては、教員や学級、学年によって活用に差があることが課題となっている。学習者端末のスクールライフノートを活用し「心の天気」の定着を図ったが、指導が徹底できていない学級もあるため、1 日の中で一斉に入力する時間を設定するなど、足並みを揃えて取り組むための改善が必要である。来年度は全市において「相談機能」の追加や欠席連絡等アプリ「ミマモルメ」が導入されるため、全教員の共通理解のもと活用を定着させる。

働き方改革の推進においては、新型コロナウイルス感染症による部活動の対外試合等の制限もなくなったため、部活動の指導に起因する教員の時間外勤務時間が昨年度に比べ大幅に増加している。部活動指導員や複数顧問制を活かし、平日及び休日の指導を輪番で行うなどの負担軽減が必要である。

大阪市立平野中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかつた	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況				
【安心・安全な教育の推進】					
全市共通目標（小・中学校）					
○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>79.4</td> <td>96.21</td> </tr> </table>	令和3年	令和4年	79.4	96.21
令和3年	令和4年				
79.4	96.21				
○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>6.56</td> <td>5.5</td> </tr> </table>	令和3年	令和4年	6.56	5.5
令和3年	令和4年				
6.56	5.5				
○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>33.3</td> <td>45.0</td> </tr> </table>	令和3年	令和4年	33.3	45.0
令和3年	令和4年				
33.3	45.0				
学校園の年度目標					
○学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、95%以上にする。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </table> A	令和3年	令和4年	100	100
令和3年	令和4年				
100	100				
○年度末の学校教育生徒アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上にする。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>調査なし</td> <td>97.47</td> </tr> </table>	令和3年	令和4年	調査なし	97.47
令和3年	令和4年				
調査なし	97.47				
○年度末の学校教育生徒アンケートの「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>85.4</td> <td>88.38</td> </tr> </table>	令和3年	令和4年	85.4	88.38
令和3年	令和4年				
85.4	88.38				
○年度末の学校教育生徒アンケートの「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。	<table border="1"> <tr> <td>令和3年</td> <td>令和4年</td> </tr> <tr> <td>93.4</td> <td>97.73</td> </tr> </table>	令和3年	令和4年	93.4	97.73
令和3年	令和4年				
93.4	97.73				

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>長期欠席児童生徒（欠席日数30日以上）について、調査を行い、状況の把握をするとともに、生徒との教育相談や家庭訪問など、普段から生活状況も含めて捉えられるよう取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個別状況については教育・生活シートを作成し、全教職員の共通理解を図るため研修を年に2回実施する。 ・年に3回、教育相談週間を設けて、子どもの心のケアに努める。 ・月に1回、学校生活アンケートを実施し、子どもの心のケアに努める。 ・年間30日以上欠席した児童生徒の人数を昨年度よりも減少させる。 	A
取組内容②【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>生徒が安心して学校生活が送れるよう、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組む。また、いじめが疑われる場合は、迅速かつ適切にこれに対処し、さらにその再発防止に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、「中学校いじめ防止基本方針」をもとに研修会を実施する。 ・「いじめについて考える日」に全校集会で講話をおこない、また生徒会より全校生徒にアナウンスをし、いじめを絶対に許さない学校の雰囲気作りに努める。 ・年に3回、いじめアンケートと被害調査を実施し、早期発見、早期対処に努める。 	A
取組内容③【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>虐待について状況の把握を早急に行い、生徒の安全を第一に考え、より良い措置を行うよう努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1度、区役所や各関係諸機関との連絡会議を行い、実態の把握に努める。 ・全教職員の共通理解を図るため週に1度、主任会を開き、実態の把握に努める。 ・年度末に昨年度の虐待通告数を減少させる。 	A
取組内容④【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>スマホの危険性や依存性などを生徒に理解させ適切な使い方が出来るような取り組みをおこなう。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年時に1回、スマホ安全教室を行い、スマホの適切な使い方を学習する。 ・年に2回、学校教育生徒アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。 ・年に3回、学年集会時にスマホの使い方についての指導をする。 	B
取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】 <p>学校行事や学年取組について、生徒が主体的に、運営や企画などを考え、取組ませるよう指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、生徒専門委員会を開き、委員会で出た意見などを生徒議会で共有する。 ・行事ごとに、生徒実行委員会などを発足する。 ・行事後に、感想文などで行事を振り返り、それぞれの役割の反省と成果を確認する。 	A

取組内容⑥【施策2 豊かな心の育成】

大阪市が長年培ってきた人権教育の実践をふまえ、差別を許さず共に生きる社会への実現に向けて、生徒・教職員の人権意識の向上に努める。

B

指標

- ・平野区人権教育講演会、ならびに平野区人権教育実践交流会への教職員の参加を促す。
- ・各教育部会や学年の発案による授業を年間に最低2時間ずつ行い、生徒に豊かな人権感覚を身につけさせる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

生徒の状況についての研修は2回実施し、家庭環境や友人関係などについて全職員で共有し、生活指導に活かすことができた。教育相談は計画通り各学期に1回実施し、生活アンケートは概ね月1回実施した。教育相談やアンケートの回答をもとに生徒の悩みや問題に迅速に対処し、生徒の心のケアに努めることができた。長欠生や配慮が必要な生徒について、担任が適宜家庭訪問や家庭連絡を行い、その都度学年で情報を共有して対処した。今後も研修会での生徒の共通理解、日々の生徒や家庭の変化について適切に状況を把握し、個々の事案について迅速に対応する。

取組内容②

「いじめアンケート」と「被害調査」を計画的に実施し、実態の早期把握と早期対処につとめた。いじめの疑いのある事案（今年度2件）を認知した際は、迅速に「いじめ防止対策委員会」を開き、組織として対応した。「いじめについて考える日」は生徒主体となり、学校全体でいじめを許さないということを認識できた。

取組内容③

月1回の関係諸機関との連携会議を通して、生徒の実態把握と対処法の検討をした。また主任会を週に一度実施し、各学年の生徒の様子や近隣中学校の状況などを共有し、今後の動きに繋げることができた。虐待通告数は3件あり、関係諸機関と連携して対応し、その後の見守りを継続している。

取組内容④

「学校教育アンケート」の回答をもとに生徒の実態を把握し、スマートフォンの危険性やSNSによるトラブルを未然に防ぐための指導に活かした。長期休業前などの学年集会時や「スマホ安全教室」の際に、スマホの使い方や実際にあった事例を伝え、スマホの適切な使い方を指導した。

取組内容⑤

月に1回の生徒専門委員会や生徒議会で生徒主体の活動を考案した。学年行事の際には生徒実行委員会を発足し、生徒が主体となって行事の運営ができるよう指導した。取組の成功体験を通して生徒の自己肯定感も高まった。

取組内容⑥

7月の平野区人権ネット総会や1月の平野区人権講演会に多くの教員が参加した。各教育部会や学年の人権教育は概ねできているが、年度当初の計画及び進捗状況について適切に把握することができなかつた。

次年度への改善点

- ・年度当初に生徒の家庭環境や友人関係などを全教職員で共有することにより、配慮を要する生徒や家庭の理解を深め、個に応じた対応をとることができた。関係諸機関との連携が必要な対応については見守りを継続する事案がほとんどであるが、主任会やSSWの会議の際に事案の経過や個々の生活状況を把握し、学校としてできる支援を具体進捗状況化して取り組んでいく。
- ・教育相談の時間の確保とアンケートや被害調査の内容について見直す必要がある。
- ・計画的にスマートフォンの使い方を指導しているが、SNSに関するトラブルが複数件あった。各学年で起こった事案の内容を踏まえて指導に活かすとともに、教科横断的な学習を通して指導を工夫していく。
- ・学年行事の実行委員会の取組内容を共有し、計画的・系統的な行事の立案と生徒指導に役立てたい。また、人権教育やキャリア教育においても各学年の取組の進捗状況を適宜把握し、3年間を見越した指導計画を立て実施していく必要がある。

大阪市立平野中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。	
令和3年	令和4年
38.3 (12.5 学調)	37.4
○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。	
令和3年	令和4年
国語 0.91 (2年) 0.85 (1年) 数学 0.94 (2年) 1.01 (1年)	国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 数学 0.95 (3年) 1.03 (2年)
○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当(440)以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。	
令和3年	令和4年
40.7 (大阪市 52.6)	52.5 (大阪市 55.8)
○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を40%以上にする。	
令和3年	令和4年
43.5 (学調)	55.6
B 学校園の年度目標	
○年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)3割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1%減少させる。	
令和3年	令和4年
2年 19.1 (5教科) 1年 6.8 (3教科)	3年 15.0 (5教科) 20.4 (3教科) 2年 7.9 (3教科) 21.7 (5教科) 1年 12.9 (R4 3教科)
○年度末の校内調査(学校力UPベース)の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60%以上にする。	
令和3年	令和4年
85.9	89.1
○年度の学校教育生徒アンケートの「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、「給食を残さず食べていますか」それぞれに対して、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。	
令和3年	令和4年
85.8	起床: 89.4、給食: 80.3

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】 前年度チャレンジテストの平均正答率3割以下の生徒について、誤答の多かった問題を精査し、その改善を図るため定期的に家庭学習課題を設定する。また、国語、数学、英語の3教科においては習熟度別授業を行う。	C
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の3割以上で小テストを実施する。 ・基礎学力向上のため、月に2回以上の家庭学習課題を設定する。 <p>自学自習を習慣づけるために年間25時間以上のデジタルドリルの活用を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解力向上のため、朝読書の時間を週4日設定する。 	C
取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業で自分の考えを深めたり、広めたりする力をつけるために、生徒間の対話による学びを推進する。	C
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の今年度のテーマ「自分の考えを持ち、伝える力を伸ばす」に基づいて、研究授業を実施し、効果的な指導法を共有する。 ・自分の考えを「書く」、「伝える」活動（思考力・判断力・表現力の育成）の習慣化を図るために、言語活動の位置づけ（「どこで、どのような」を考える）を単元ごとに設定する。 	A
取組内容③【施策5 健やかな体の育成】 体育の授業において、全ての生徒が意欲的に運動に取り組むために、教師と生徒及び生徒間の肯定的なコミュニケーションの場面を増やす。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・単元や競技によって、班活動を通して生徒間の学び合いを促す。 ・学校教育生徒アンケートの「体育の授業に毎時先生が2人いる（3年女子以外）ことで、複数の種目や技能に応じたグループ編成により意欲的に参加できていますか」という項目に対して、肯定的に回答する生徒を70%以上にする。 	A
取組内容④【施策5 健やかな体の育成】 健やかな体の育成に必要な運動、睡眠、食事の大切さを保健の授業や委員会活動を通して推進し、家庭での基本的な生活習慣の定着を図るために、家庭との連携を密にする。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 全学年の国語・数学・英語の授業を中心として3割以上の授業で小テストを実施し、学習の基礎基本の定着に努めた。月1、2回の家庭学習週間を計画的に実施し、4教科でも家庭学習の課題を出している。 各学年とも授業でのデジタルドリルの活用はある程度できているが、家庭におけるデジタルドリルの活用が進んでいない。2年生は授業での活用以外にも夏季休業中にタブレットを全員持ち帰り活用を促し、3年生は学習内容と関連した問題を紹介し、自発的に課題に取り組むよう指導した。それぞれの教科でデジタルドリルの年間25時間以上の活用を目指したが、教科によって活用状況に差があり指標を達成できなかった。	
取組内容② 研究協議を伴う学校全体の研究授業は、1学期に3年生、2学期に2年生、3学期に1年生で計画通り実施できた。授業時間内で実施している研究授業については、参観者数が依然として少ない。また、研究テーマに基づいて研究授業を実	

施できた教員は半数程度であった。授業アンケート⑥の研究テーマの推進について「授業中のペアや班活動での話し合う活動等を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」の問い合わせに対して、教員の授業力の校内平均値は3.19で低い結果となった。

全ての教科で言語活動の位置づけを設定し、自分の考えを「書く」「伝える」活動の習慣化を図り、生徒一人ひとりの考えを各学級や学年間で共有する活動やワークシートにまとめる活動を各教科で行うよう努めた。

取組内容③

単元によって生徒の協同学習を設定し、習熟に応じた活動を行うことで授業に意欲的に取り組む生徒が増えた。

保健体育の全学年でチームティーチングを行うことで、事前の準備や器具等の安全点検を徹底し、個々の生徒の運動能力に応じてきめ細やかな指導を行うことができた。学校教育生徒アンケートの「体育の授業に毎時先生が2人いる（3年女子以外）ことで、複数の種目や技能に応じたグループ編成により意欲的に参加できますか」という項目に対して、肯定的に回答する生徒が93.4%で、達成水準を達成することができた。

取組内容④

給食委員会によるお昼の放送を毎週木曜日に実施した。保健委員会では自己肯定感を高めるためのピアサポートを取り入れ、ポスターの作成や呼びかけなどを行った。食育通信以外に、栄養教諭と連携し全校生徒対象・各学年別に食育に関する授業を行い、食育を推進することができた。

保健の授業の単元後にワークシートや学習ノートを活用し、自身の生活習慣を振り返らせたことで、健康に関する意識が高まっている発言が多く見受けられた。

次年度への改善点

- ・デジタルドリルの活用については普段の授業で活用する機会を増やすとともに、タブレットを持ち帰り実施させるなどの工夫が必要である。デジタルドリルのコンテンツに偏りのある教科（国語と英語など）もあるため、活用にはプリントと併用するなどの工夫が必要である。
- ・朝読書の定着と「ひらちやんノート」の活用を推進するために、読書時に記録を促し、学期末ごとに確認するなどの工夫が必要である。
- ・通常の授業時間に実施される研究授業の参観者数を増やすために、教員一人ひとりに最低回数を設け、授業の参観を通して個々の授業力の向上を図る。
- ・教科の特色があるため、単元ごとに言語活動の位置づけを設定することは難しいが、年間指導計画の中に計画的に活動を位置づけていく。観点別の「思考・判断・表現」の力を伸ばすことに重点を置き、「書く」「伝える」活動の習慣化を図るために、毎学期末の授業時数の確認の際に各教科の年間指導計画の中の言語活動の進捗状況を確認する。
- ・種目や技能に応じたグループ編成を行い、複数の教員でチームティーチングを取り入れて指導した結果、授業に意欲的に参加する生徒が増えた。今後も教科の教員間の連携を密にし、きめ細かい指導を継続する。実技の授業では、積極的にICT機器を活用し生徒が主体的に活動することができ、技術の向上にも繋がった。今後は保健の授業でも、主体的な学びに繋がる活用方法を考えていく。

大阪市立平野中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況				
【学びを支える教育環境の充実】					
全市共通目標（小・中学校）					
○家庭や授業で一人一台の学習者端末を効果的に活用し、年度末の校内調査における「家庭や授業で学習者端末を週に3回以上活用しますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>調査なし</td><td>70.45</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	調査なし	70.45
令和3年	令和4年				
調査なし	70.45				
○協働学習支援ツールを用いた学習を推進し、年度末の校内調査における「学習者端末を活用して、友達と協力して授業の学習内容を理解することができている。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>調査なし</td><td>72.98</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	調査なし	72.98
令和3年	令和4年				
調査なし	72.98				
○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を43%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>44.74</td><td>35.90</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	44.74	35.90
令和3年	令和4年				
44.74	35.90				
学校園の年度目標					
○学習者用端末を活用した家庭学習の取組を月2回実施し、年度末の学校教育生徒アンケートにおける「デジタルドリルを活用した家庭学習で、学校の学習内容を復習することができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を55%以上にする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>調査なし</td><td>31.57</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	調査なし	31.57
令和3年	令和4年				
調査なし	31.57				
○ゆとりの日の設定を、月2回以上または各学期に6回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間においては1日以上設定する。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>ゆとりの日0、閉庁日4日</td><td>ゆとりの日17日（2月末まで） 夏季閉庁日3日、冬季閉庁日3日</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	ゆとりの日0、閉庁日4日	ゆとりの日17日（2月末まで） 夏季閉庁日3日、冬季閉庁日3日
令和3年	令和4年				
ゆとりの日0、閉庁日4日	ゆとりの日17日（2月末まで） 夏季閉庁日3日、冬季閉庁日3日				
○令和4年度の学校教育生徒アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>68.6</td><td>70.45</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	68.6	70.45
令和3年	令和4年				
68.6	70.45				
○年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目で、肯定的に回答した保護者の割合が前年度（87.7%）を上回る。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和3年</td><td style="width: 50%;">令和4年</td></tr> <tr> <td>87.7</td><td>87.62</td></tr> </table>	令和3年	令和4年	87.7	87.62
令和3年	令和4年				
87.7	87.62				

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 日常的に学習者用端末を活用し、見た目には表れない生徒の心の変化を可視化し、教育相談に活かす。		
指標 ・スクールライフノートの「心の天気」を週3回以上活用し、生徒自身の心の状態を入力する。 ・年3回の教育相談に「心の天気」の内容を活かす	B	
取組内容②【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末を校内、家庭で活用する場面を増やすために、家庭学習の課題としてデジタルドリルを活用し、校内ではTeamsによる協働的学習の研究を推進し、各種アンケートにスマートスクールのアンケート機能を積極的に活用する。	C	
指標 ・学期ごとに1回、学習者端末を利用した「いじめアンケート」を実施し、生徒の現状を知るとともにいじめや不登校の未然防止・早期発見・迅速な対応を図る ・年3回の長期休業中の課題にもデジタルドリルを活用し、個に応じた学習内容の定着を目指す		
取組内容③【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の長時間勤務の解消を通じて、教員一人一人が仕事と生活の調和の実現ができる環境を整える。	C	
指標 ・部活動に起因した長時間勤務となっている顧問教員の負担軽減を図るため、部活動指導員等の会計年度職員を積極的に雇用する。 ・校務支援システム等のICTを活用し、各種調査やデータの分析にかかる時間短縮や会議の精選を行う。 ・「ゆとりの日」を月に1回以上または学期に6回以上設定する。		
取組内容④【施策8 生涯学習の支援】 生徒の興味・関心に合わせた本を精選して購入し、学校図書館（や学級文庫）を活性化させる。	B	
指標 ・週3日は朝読書の時間を確保し、学校図書館を年間85日以上開館する。 ・図書の貸し出し冊数を年間50冊以上にする。 ・平野区役所が推進する「ひらちゃんノート」の取組に参加する生徒を前年度より増やす。		
取組内容⑤【施策9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 PTA役員会や校区の地域活動協議会等で、学校の教育活動や生徒の様子について情報を共有し、学校・地域・保護者の連携による取組を推進する。	B	
指標 ・地域活動協議会の定例会で、教育活動や生徒の様子について報告する。 ・学校及び学年行事について、ホームページや学校だよりを通して周知する。 ・地域の防災リーダーやPTA実行委員と連携した教育活動を年2回以上実施する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① スクールライフノートの「心の天気」の活用が定着したほとんどの学級においては、教員が生徒の状態を把握し、雷・雨マークの生徒へ教育相談を行えている。しかし、学級によって徹底できていない学級もある。		

取組内容②

デジタルドリルの活用は教科によっては進んだが、家庭での活用は目標通りに進まなかった。端末の各家庭への持ち帰りが習慣化されなかつた点が課題となる。

取組内容③

人材バンクの登録問題もあり、部活動指導員の確保が難しい状況が続いている。学びサポーターに放課後学習会や授業支援、教材準備等を任せ、生徒の学力向上、教員の負担軽減に繋がった。

校務支援システム等を活用し、各種調査やデータの分析にかかる時間短縮が進んでいる。また会議の構成メンバーや開催頻度について見直しを進めている。ゆとりの日は目標を上回り設定したが、個々の教員の労働時間の軽減につながっているか検証を要する。

取組内容④

全学年、週3日以上の朝読書を行うことができている。また学校図書館の年間開館日は100日以上を超え、図書の貸し出し冊数は150冊以上となっている。平野区役所が推進する「ひらちゃんノート」の取り組みに参加する生徒の人数は前年度より減少した。

取組内容⑤

地域活動協議会の定例会やホームページ、学校だよりを通して学校の教育活動の様子について周知することができた。11月に実施した防災訓練では関係諸機関と事前に調整し、多くの地域防災リーダーが参加し、防災リーダーが主体となって指導できるよう指導内容を工夫することができた。

次年度への改善点

- ・ 学習者端末の活用を進めるために、各教科で活用法や課題について検討し、効果のあった課題について全職員で共有・検証するなど、学力向上委員会とICT担当が連携した取組を考えてく。また、「心の天気」の入力や状態の把握を全学年で徹底し、学校での学習者端末の習慣化を徹底する。
- ・ 学習者端末の使用頻度が高くなることで、個人情報の扱いや端末、アダプターの管理が疎かにならないよう留意し、管理や活用におけるルールの指導を適宜行う。
- ・ 次年度、部活動指導員が2名増員予定となっている。教育委員会とも連携し、部活動指導員や学びサポーター等の会計年度職員の任用に努める。また部活動にかかる顧問教員の負担軽減については、多忙な時期には同時間帯に顧問・副顧問の両方が指導に当たることのないように各部で調整していく。
- ・ 朝読書の時間に「ひらちゃんノート」に読書記録を記録するよう指導し、区役所と連携した取組みを定着を図る。また、文化委員にも「ひらちゃんノート」の活用を広める取組を考案させたい。図書の貸し出し冊数を年間80冊以上に増やすために、図書の貸し出し時間について検討する。
- ・ PTA実行委員会の取り組みについては、コロナウイルス感染症の感染状況をみて、可能な限り開催していきたい。